

追悼

白田甚五郎先生

福田 晃

平成十八年十月二十六日早朝、本学会の生みの親ともいえる
き國學院大学名誉教授・白田甚五郎先生が逝去された。享年
九十一歳。

先生は東京都大田区の白田坂に生を享けられ、府立一中から
國學院へ進み、折口信夫先生（釈迢空）の講筵に列せられた。
それは一中時代に若山牧水を中心とした短歌の世界に強く惹か
れての進学であったと聞く。ちなみに先生は、生涯を通して、
日本の歌詠みのお一人であられた。しかも、予科入学まもなく、
折口先生の主催される郷土研究会にも出席され、そこで民俗
学を知り、「世の中が変って見える」ようになったと言われる。
先生の学問は、まずは国文学にあり、それは古代の万葉集から
近代の川端康成・高見順に及ぶほどのものであるが、その根底
には、学生時代に折口先生によって培われた民俗学があったと
言える。

さて先生は、國學院大学卒業後まもなく、二十五歳で『土佐
日記注解』を出され、二十六歳で『神道と文学』を公刊されて

いる。一方、一中時代に藤田徳太郎氏の「歌謡の展開」に心を
惹かれ、大学卒業後は、学兄・鈴木棠三氏の導きで歌謡のフイ
ルド調査を試みられるようになった。しかしてお勤めの文部省
教学局の助成を得て、およそ一年間、全国各地の歌謡調査に歩
かれ、その成果が名著『歌謡民俗記』に結実した。二十八歳の
ことであった。それ以後、公刊書は、『平安歌人研究』『日本芸
能叙説』などと続き、やがては『食はず女房その他』『天人女
房その他』『屁ひり爺その他』などに及ぶが、その著作の大部
分は、『白田甚五郎著作集』全八巻、別巻一冊に収められている。
それは、おおよそ次のごとくである。

第一巻 日本文学の発生

第二巻 和歌文学研究

第三巻 日本歌謡研究

第四巻 歌謡民俗記

第五巻 口承文学研究

第六巻 日本伝統学

第七巻 物語文学研究

第八巻 日本芸能叙説

別巻 口承文学大概

先生の学問は、自ら実感実証にあると説かれている。その実
感は、折口信夫先生の学説にしたがうものであるが、これは世
の文献学者・歴史学者の強く批判するものであった。しかし、
それは、文化人類学者の川喜田二郎氏が説かれる仮説発想法に

通じるもので、狹隘な批判は当るまい。しかも先生は、その仮説発想に、実証の裏付けを主張され、自らそれを実践された。伝承と文献とを合わせて重視する方法と言えるものであった。

先生の本学会設立の思いは、昭和四〇年に遡る。大学紛争の最中、國學院大学の学生部長として忙殺されたが、一息ついで一年間、欧米に遊学。五〇歳の折であった。各国の大学・研究所・博物館・美術館をめぐるなかで、特にフィンランドが全国的体制で口承文芸の調査・収集・整理・研究を力強く進めていることに、深い共感を得られたと聞く。直前、先生は、日本学術会議会員として国立国文学研究資料館の設立に尽力され、あるいはそのなかに、口承文芸部門の包含を強く主張された経緯があつてのことでもある。さらに昭和四十九年、フィンランドのヘルシンキで開催された第六回口承文芸国際会議に出席、あえて「日本の昔話」についての研究報告をおこなわれた。学会後、北欧五ヶ国が共同運営する民俗学研究所を見学、その折に出会われた韓国・仁荷大学の崔仁鶴教授とアジアにおける民族間の比較研究のための相互交流を約されたという。昭和五十一年五月には、その崔教授の招きで、関敬吾・直江広治・大林太良の三氏——ただし関氏は健康上の理由で書面参加——、その他とともに、韓国・関東大学民俗学研究所主催の東北アジア民俗学シンポジウムに参加された。時に韓国は国をあげて口承文学の収集と整理にとりかかろうとしていた。先生は、このシンポジウムの参加者に、日本の口承文芸学会設立の必要を説かれ、

賛同を得て、帰国まもなく、國學院の研究室に準備事務局を置き、その具体化に動かれたのであった。そしてその学会創立に至った経緯は、会誌『口承文芸研究』第一号の末に、先生ご自身が記しておられるが、当学会に期待されたことは、実は、「日本および諸外国の口承文芸ならびに口承文芸に関連するものの調査・資料収集・研究を促進し、研究者間の交流をはかる」（会則）のみならず、世界に誇るべき日本の「口承文芸資料館」の設立であり、世界の口承文芸研究者との交流を試みながら、世界に通じる国際的口承文芸研究の推進にあつたようだ。

以上、ご業績の一端をあげ、本学会設立のご功績をしのび、先生への追悼を捧げる次第である。時に今年には、本学会設立の三十周年に当り、その記念事業が進められている。学会設立に参加された先生の同世代の多くは今はなく、その意志に従ったわたくしどもの第二世代もすでに定年を迎えている。しかし、次の第三世代・第四世代の研究者は意気軒昂である。おそらく先生の学会創設の意図をかならずや達成してくれるであろう。どうぞ安らかにお眠りいただきたい。

平成十八年十二月十五日

（ふくだ・あきら／日本口承文芸学会委員）

（追記 白田甚五郎先生に対する追悼文は、わたくしの任とするところではない。しかし、編集担当者から事情をうかがい、あえてお引き受けした次第である）